

地震に備える

地震が起きたら

地震発生

まず身の安全を図り、揺れがおさまるまで様子をみましょう。

周りの状況を確認

いっつき避難場所 (小さな公園や空き地など)

ご近所の安否確認や、周辺の災害状況を確認して状況に応じた避難をするために、地域の皆さんが集まる場所です。
※自治会・町内会が任意で決めており、共助の第1歩となります。

火災が広がっている

広域避難場所 ※一覧は地図面参照

地震による延焼火災の輻射(ふくしゃ)熱や煙から、命を守るために一時的に避難する場所です。

火災の危険なし
家屋の倒壊なし

自宅にとどまる

自宅建物に火災や倒壊の危険がないときは、あえて避難する必要はありません。



福祉避難所

高齢者や障害者などのうち、避難生活で特別な配慮が必要である人のための二次的避難所です。

必要に応じて

地域防災拠点 ※一覧は地図面参照

市内で1箇所でも震度5強以上を観測した際に、開設します。被災者が避難生活をおくる場所で、中区では15箇所が指定されています。

地域防災拠点の主な役割

- ①指定避難所
- ②最低限の水と食料の備蓄場所
- ③安否情報・被害情報・救援物資情報の収集・伝達場所

津波からの避難

津波避難のポイント

◎より早く、より高い場所への避難

避難する時は、

- ・ 海拔5m以上の高台
- ・ 鉄筋コンクリート造等、かつ地震の揺れによる被害のない建物で3階以上を避難の高さの目安にしましょう。

◎避難に車を使わない

車を使わずに避難しましょう。(自立歩行が困難な要援護者等が避難する場合、その他やむをえない事情がある場合を除く)。一斉に車で避難すると渋滞が発生し、逃げ遅れてしまう可能性があります。

大雨や台風に備える

大雨や台風に備え、とるべき行動

Start

Q ハザードマップを見て自分の暮らす地域を確認。危険のある地域ですか?

いいえ

自宅待機

油断せず
災害情報や避難情報を必ず確認しましょう。

はい

被災する危険があるので、自宅の外に避難が必要です。*

危険のある地域の事例



がけの上、がけの下に家がある
川のそばに家がある
海のそばに家がある

※土砂災害の危険があっても、丈夫なマンションなどの上層階に住んでいる場合は自宅にとどまり安全を確保することも可能です。

Q 避難に時間がかかりますか? (高齢者や歩行が困難な人など)

はい

いいえ

警戒レベル3 になったら

避難場所や安全な親戚・友人宅へ避難しましょう。

警戒レベル4 になったら

避難場所や安全な親戚・友人宅へ避難しましょう。



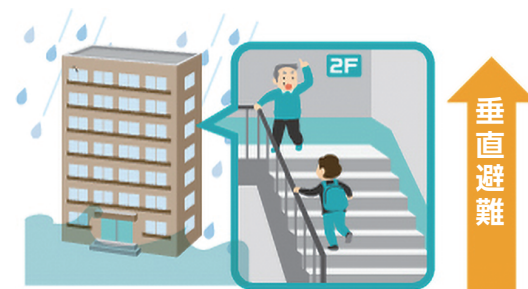
どこに避難する? ~命を守る避難行動~



水平避難

●安全な場所へ避難

避難場所、近くの高台、土砂災害警戒区域や浸水想定区域でない親戚の家などへ



垂直避難

●丈夫な建物の2階以上、または近隣の高い建物へ避難



屋内避難
斜面の反対側

●建物内の安全な場所で退避

屋外へ避難するとかえって危険な場合には、家の上の階や、がけの反対側などへ

避難情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は、暮らしている地域に合った避難行動をとりましょう。

風水害時の避難場所と警戒レベル

風水害発生時「警戒レベル3」になると、がけ地のそばに住んでいる人などが避難するため、避難場所が開設されます。



- 麦田清風荘 麦田町1-26-1 [F-6]
- 山元小学校 山元町3-152 [E-8]
- 大鳥小学校 本牧町1-251 [H-7]
- 上台集会所 本郷町2-50 [H-6]
- みなと総合高等学校 山下町231 [D-5]

※その他の避難場所は、災害の状況に応じて開設します。
※震度5強以上の地震発生時に開設される地域防災拠点とは異なります。

警戒レベル	とるべき行動
5	命の危険 直ちに安全確保!
<警戒レベル4までに必ず避難!>	
4	危険な場所から全員避難
3	危険な場所から高齢者等は避難
2	自らの避難行動を確認
1	災害への心構えを高める